

二 鉄道の敷設

赤岡駅誕生

一八七二（明治五）年、新橋―横浜間に鉄道が敷設された。その後、全国に鉄道敷設が計画された

が、四国、特に高知県の鉄道敷設普及はきわめて遅かった。

高知にあつて、最初に軌道を敷設したのは土佐電気鉄道株式会社であった。一九〇三（明治三十六）年七月に会社を設立、翌年五月、升形―堀詰―潮江間に電車を開通させ、一九一一年には電車路線を後免まで延長した。

一方の国有鉄道の開発事業は、一九一五（大正四）年、須崎―山田間に国有鉄道の起工がなつたものの、その開通は一九二四年十一月のことであつた。その翌月、高知鉄道株式会社により、後免町―手結間に鉄道が開通、一九二四年十二月一〇日、赤岡駅が開業した。

高知鉄道株式会社は、第一次大戦の好景気を背景に、高知県東部の鉄道建設を目指して設立された会社で、発起人は浜崎文太郎ほか三三人である。資本金二〇〇万円を募り、一九二〇（大正九）年一月八日に創立総会を開いた。初代社長の町田亘龍は、政友会高知支部長として、憲政会の重鎮であつた。

一九三〇（昭和五）年四月一日には、安芸間まで路線は延長されたが、すでに後免―手結間にバスが頻繁に運行されていたため、業績は今一つ振るわない状況であつたという。

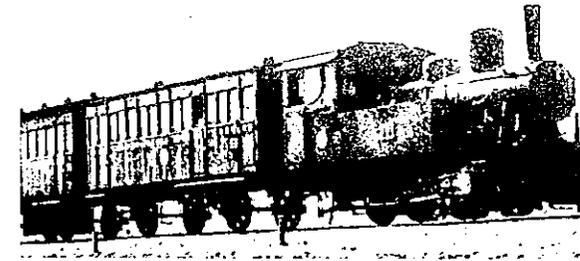
一九四一（昭和十六）年には、土佐電気鉄道の軌道部門及び土佐バスと合併、土佐交通と社名を変更、その後、戦時下の統制により、合併や社名変更を重ね、戦後の一九四八年、土佐電気鉄道と社名が変更されて、現在に至っている。

当初、汽車による運行であつたが、一九四九年に全線電化が完

第1部 町の「ルーツ(前身)」をさぐる(太古～昭和20年)



土佐電鉄赤岡駅(電化後)



電化前利用されていた汽車

成し、電車が運行するようになった。
一方、県民の悲願であった国鉄土讃線の高知―高松間の全通は
一九三五(昭和十)年のことで、これによって、高知県もやつと陸
の孤島から解放されることになった。

五 交 通

町内を走る幹線道路として、一般国道の国道五五号(高知市―室戸市―徳島市)と、県道香北―赤岡線(県道三〇号線)と県道春野―赤岡線(県道一四号線)がある。

町道は、昭和四十四年の同対法定制以来、同和地区道路を中心に整備されてきた。

昭和四十五(一九七〇)年から順次、計画・実施に移された道路整備事業は、同和地区内の生命線ともいえるべき幹線道路の拡幅工事から始められた。南北線、東西線を皮切りに、香宗川線、須留田線、幸町線、南町線などの整備が続けられた。赤岡町の町道改良率は県内二位、町道舗装率は県内トップである。

一方、赤岡町を通る鉄道には、平成十四(二〇〇二)年に開業した土佐くろしお鉄道阿佐線(愛称「こめん・なはり線」)がある。南国市の後免駅と安芸郡奈半利町の奈半利駅を結ぶ県東部の幹線鉄道であり、県を主体とした第三セクターにより運営される。

かつて赤岡町には土佐電鉄安芸線が通っていたが、昭和四十九(一九七四)年に廃止された。それから二八年目にして再び開通したのが「こめん・なはり線」である。

あかおか駅から後免駅まで最速で約一〇分、高知駅までは約三〇分で結ぶ。全線の大半が高架区間であるうえ、「あかおか駅」か

ら東の路線は太平洋沿いを走る区間が多いため、その眺望を求めて観光目的で乗車する人も多い。

また、赤岡町から高知龍馬空港(南国市)まで車で約一〇分の至便さである。高速道路へのアクセスとしては、高知自動車道南国インターチェンジ(南国市)があり、東部自動車道が開設されつつある。船舶を利用するには、高知港(高知市)まで車で約四〇分である。

第5章 町の基盤整備

第三節 土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線

悲願三七年目の開通 今日、赤岡町南部を東西に走る土佐くろしお鉄道阿佐線は、平成十四(二〇〇二)

年七月一日に開業した。地元では「ごめん・なはり線」の愛称で親しまれている。

ごめん・なはり線は、高知県南国市の後免駅から高知県安芸郡奈半利町の奈半利駅に至る県東部の幹線鉄道で、高知県を主体とする第三セクター「土佐くろしお鉄道株式会社」が運営する。

今日のごめん・なはり線は前述のように平成十四(二〇〇二)年の開業だが、そのはるか前身ともいうべき阿佐線の歴史は大正十一年(一九二二)年にまでさかのぼる。この年四月、四国循環鉄道構想のもと、阿佐線は改正鉄道敷設法に基づく予定線に組み入れられ、将来の優先的敷設が約束された。その後、昭和三十年代になつて調査線、工事線へと昇格し、昭和四十四(一九六五)年に日本鉄道建設公団の建設線である国鉄阿佐西線として安芸―田野間が着工された。

一方、後免町―安芸間には、昭和五(一九三〇)年に全通した土

佐電気鉄道(当時は高知鉄道)の安芸線が営業していた。赤岡駅も安芸線沿線駅の一つで、昭和三十年代には安芸、野市と並んで乗降客の多い駅としてにぎわった。

しかし、昭和四十年代半ばになると、安芸線は、貨物輸送の廃止やモーターゼーションによる旅客収入の減少などのために赤字がふくらんでいった。

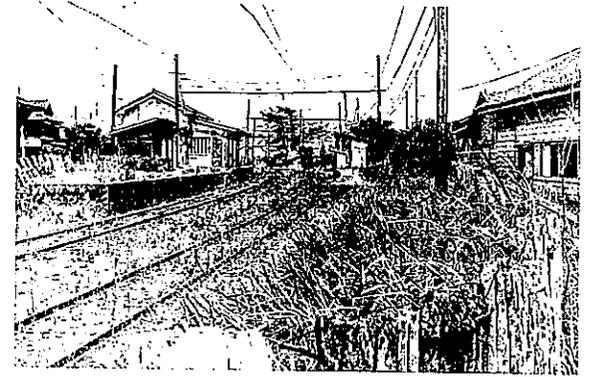
そこで、土佐電気鉄道は、赤字を解消するために安芸線の軌道用地を国鉄に売却することで、自ら安芸線廃止の道を選んだ。昭和四十九(一九七四)年四月のことである。売却した廃線跡を国鉄が利用することで国鉄阿佐線の建設が促進されると考えてのことであった。この昭和四十九年の安芸線廃止以来、県東部は鉄道のない時代を迎えたのである。

土佐電気鉄道安芸線が廃止された四月、日本鉄道建設公団はさつそく後免―安芸間の高架橋の工事などに着手したが、今度は国鉄の財政悪化が顕著になり、昭和五十六(一九八一)年十二月、国鉄再建法(日本国有鉄道経営再建促進特別措置法)の施行により、建設線であった阿佐線の工事は凍結を余儀なくされた。

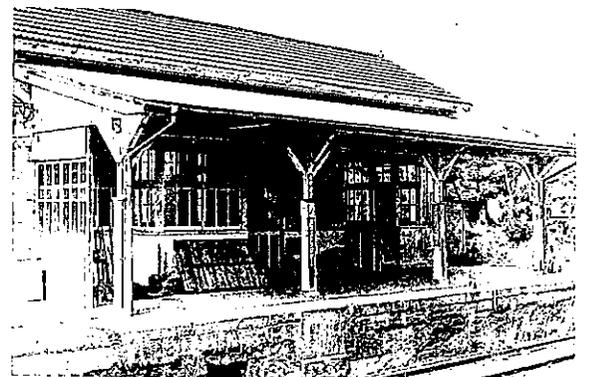
この時点ですでに高架橋や盛土、トンネルを含めて一八・九キロメートルの路盤工事が終了していた。その後長期間にわたって放置されるままとなった建設途中の盛土は「土佐の万里の長城」などとも言われた。

その後、鉄道の再建を望む沿線住民と自治体の声は高まり続

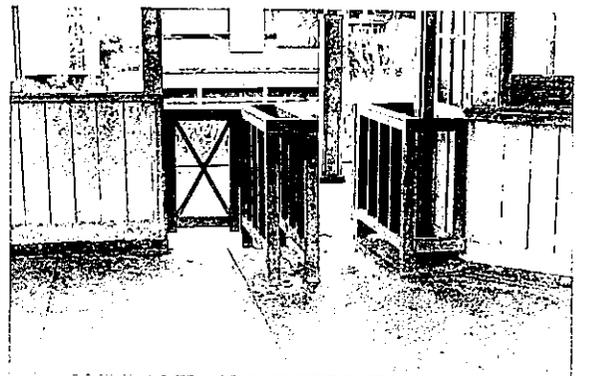
第2部 赤岡町のあゆみ (昭和20年～現在)



廃止前の赤岡駅全景



廃止前の赤岡駅プラットフォーム



廃止前の赤岡駅改札口

け、ついに昭和六十一年(一九八六年)五月、第三セクター「土佐くろしお鉄道株式会社」の設立となつて結実する。同社は昭和六十三年一月、後免―奈半利間の第一種鉄道事業免許を取得、同年三月に工事が再開される運びとなつた。

後免―奈半利間の軌道敷設完了は平成十三(二〇〇二)年十二月のことで、着工から敷設完了まで長期間を要することになつたが、これは、土佐くろしお鉄道株式会社が、阿佐線と同じく建設線であつた宿毛線も一緒に引き継いだためである。同社は当面、

宿毛線の建設を急ぐとともに、特定地方交通線に指定された中村線の維持に力を傾けたため、阿佐線の建設は後回しとなつたのであつた。

だが、その後、阿佐線の工事はよきこい団体に間に合うよう急ピッチで進められ、軌道敷設のあと、電気工事、開業試運転を経て、平成十四(二〇〇二)年七月一日、開業の日を迎えた。旧国鉄による阿佐線(安芸―田野間)の着工から三十七年、安芸線の廃止から二八年目にしての待ちに待った開業であつた。

開通後は、安芸―後免間は最速で五〇分、安芸―高知間は最速で六五分で結ばれた。あかおか駅から後免駅まで最速で一分、高知駅までは最速で三〇分である。

ダイヤ設定は安芸―後免間が一日二五往復、そのうち八往復は快速である。また、快速を含む一六往復はJR土讃線に乗り入れ、JR高知駅まで相互直通運転を実施している。朝ラッシュ時間帯の一部を除き、ワンマン運転されている。

この路線の駅数は二〇、全線単線・非電化である。路線距離(営業キロ)四二・七キロメートルで、内訳は橋梁二二・二キロメートル、トンネル九カ所八・二キロメートル、切取・盛土二二・三キロメートル。全線の大半が高架区間である。高架であるうえ、「あかおか駅」から東の路線は太平洋沿いを走る区間が多いため、潮風に吹かれながらの雄大な眺望は人気を集め、観光目的で乗車する人も多い。

ユニークな車両
車両も、通勤・通学や観光などの幅広いニーズにに応じて随所に工夫が凝らされている。

開通に合わせて、外装がステンレス製の一般車両一〇両が新たにつくられ、うち二両は海側にオープンデッキを併設した特別車両である。一般車両と特別車両のいずれも会社名の「くろしお」にちなんで「九六四〇形(くろしお)」とネーミングされ、車体の両側面に野菜や魚の絵、あるいは各駅のキャラクターが描かれ、カラフルである。

ユニークなのは阪神タイガース号で、これは沿線の安芸市営球場をキャンパ地とする阪神タイガースを応援するために特別にラッピングされた車両で、当初は平成十五(二〇〇三)年だけの期間限定で運用されたが、阪神タイガースがその年と翌々年にリーグ優勝をしたため、塗装はそのまま残されている。

また、平成十六年度に新造された車両は、駅キャラクターの作者・漫画家やなせたかしの作詞した曲にちなみ「手のひらを太陽に」号(通称「太陽」号)と命名された。イベント時には畳を敷いて、お座敷列車として運用できるようになっている。

すべての車両に、車椅子のためのスペーストイレが備えられており、バリアフリー設計が行き渡っている。

あかおか駅と「こめん・なはり線」の赤岡の駅は「あかおか駅」キャラクターと名づけられ、旧土佐電気鉄道の駅があつた場所(赤岡町字西浜三七四一一)に設置された。

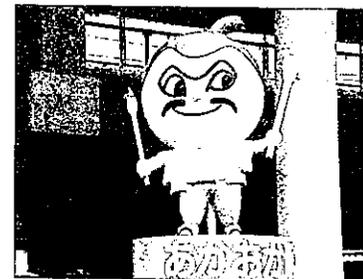
駅には快速列車と普通列車が停車する。駅は、交換設備を備えた相対式二面二線のホームをもつ高架駅で、無人駅である。高架下にはこめん・なはり線各駅のイメージキャラクターが並んだショーケースが置かれている。

こめん・なはり線の二〇に及ぶ各駅には、それぞれにキャラクターが設定されているが、これは香北町出身の漫画家やなせたかしが沿線の各市町村の特産品やイメージをモチーフに造形したもので、あかおか駅は幕末の絵師・弘瀬金蔵にちなみ「えきさん」

第2部 赤岡町のあゆみ（昭和20年～現在）



現在の赤岡駅



えきんさん

がキャラクターになっている。
路線開業の平成十四（二〇〇二）年七月一日、竣工開業式が安芸市で挙行されたが、あかおか駅では開業記念イベントが七月二十日に行われ、駅のキャラクター「えきんさん」立体モニュメントの除幕式と餅投げが行われた。当日は絵金祭り開催初日と重なり、後免・奈半利両方からの来客でにぎわった。